

# 日本文学関係貴重書展示

## 描かれた古典

### 解説資料

#### 一 『なよ竹物語絵巻』 一巻

卷子装 寛政十二(一八〇〇)年写  
紙高三一・五cm 長さ一二・三m  
大妻女子大学図書館

巻末に「寛政十有二年庚申三月 法橋豊泉源孝之」とある。本文は籠字を用い、絵には、調度品や彩色について詳細な指示がある。外題に「なよ竹物語へ讃州白峯寺蔵」とあり、金刀比羅宮蔵本(重要文化財)の模本であることがしれる。『なよ竹物語』は、後嵯峨天皇の恋物語を描いたもので、本文は『古今著聞集』にも収録され、『鳴門中将物語』としても知られる。「楽亭文庫」(松平定信)印あり。

#### 二 「源氏物語絵」 五葉

色紙型 江戸時代中期写  
本紙縦三五・七cm 横二二・一cm  
大妻女子大学図書館

①朝顔 ②篝火 ③真木柱 ④椎本 ⑤早蕨  
(絵は早蕨、歌は手習)

『源氏物語』を題材とした奈良絵で、日焼けや彩色の状態などから、もともとは屏風絵であったものが切り出されて色紙に貼られ、その後歌が書き加えられたものと推測される。絵入版本『絵入源氏物語』などの図を手本として、いわゆる町絵師によって描かれたものらしい。歌も場面を見誤って書き込んでいたり、『源氏物語大成』等でも確認できない本文異同が見られたりと、『源氏物語』を精読しているとは言いがたい人物によって書かれたようである。

#### 三 『長谷雄草紙』 一巻

卷子装  
淵上誠方(一八三三―一九一五)画  
明治時代写  
紙高三八・五cm 長さ一二・六m  
大妻女子大学草稿・テキスト研究所

平安時代の文章家紀長谷雄が、朱雀門に棲む鬼と双六を争って勝ち、賭物として美女を手に入れたが、約束の百日の期限をまたずにこれと契ったので、美女はたちまち水となつて流れ失せてしまったという説話を絵にしたもの。永青文庫蔵本

(重要文化財)の模本か。

#### 四 『紀長谷雄草紙』 一巻

卷子装(小巻物) 江戸時代後期写  
紙高二〇・五cm 長さ六・八一m  
個人蔵

『長谷雄草紙』(三)の小巻物。図像はほぼ同様だが、詞章は一部異なる。巻末に「藏人所衆式部小丞菅原為恭(朱印)」とあるが、後代の書き入れと思われる。小巻物は、一般的な卷子本のちょうど半分程度の大きさの卷子本をいう。

#### 五 『地藏縁起絵巻』 一巻

卷子装 江戸時代後期写  
紙高四二・四cm 横九・四五m  
大妻女子大学図書館

書名は巻末にある「地藏縁起下巻」による。内容、画意については調査中。同巻末に「右土佐光弘之筆也 画意不詳文化十四丁丑年冬十月」「右模本天保六乙未歳十二月廿六日家蔵 内藤廣前」とある。内藤広前は、江戸後期の国学者。

#### 六 『聖徳太子伝』 十二帖

列帖装の大型奈良絵本 江戸時代前期写  
縦二九cm 横二二cm  
大妻女子大学図書館

聖徳太子の生涯にわたる事績を、主として仏教の立場から奉讃して描いたもの。作例は非常に多く、屏風形式、絵物語形式、掛軸形式などに分類されるが、大妻本は極彩色の絵を多く入れた物語形式の写本で、装丁の美しさの点でも類例を見ない。

#### 七 『やしろも』 三帖

列帖装の横型奈良絵本 江戸時代前期写  
縦一六cm 横二四cm  
大妻女子大学図書館

王朝物語の『狭衣物語』(十八)から、飛鳥井の君の物語だけを取り出して潤色したもの。彩色画十五図。本文は、五類に分けられる系統のうち、無刊記丹緑本や寛文五(一六六五)年版に近いもので、古本の要素も残している。(十八『狭衣物語』

参照)

## 八 『酒天童子』三帖

列帖装の縦型奈良絵本 江戸時代前期写  
縦二三・四cm 横一七cm  
大妻女子大学図書館

書名は外題による。鬼をよそおって財物、婦女子を掠奪した盗賊、酒呑童子の伝説を主題として、源頼光とその四天王による鬼退治を描いたもの。

## 九 「奈良絵断簡」(鉢かづき) 一軸

軸装 江戸時代後期写  
本紙縦一六・一cm 横二一・五cm  
大妻女子大学図書館

御伽草子『鉢かづき』の断簡で、鉢かづき姫が宰相殿御曹司に求婚される場面。『鉢かづき』は、母の臨終に鉢を頭にかぶせられた娘が継母のために家を追われるが、その鉢によって幸せになる話。継母説話に長谷観音の靈驗譚を絡ませる。

## 十 「奈良絵断簡」(和田酒盛) 一軸

軸装 室町時代後期写  
本紙縦二三・九cm 横三六・二cm  
個人蔵

『曾我物語』(二十二)に取材した幸若「和田酒盛」の一場面。兄の危機を察知した弟五郎時致が裸馬に乗って大磯宿へ駆けつけるさまを描く。画中詞は幸若「和田酒盛」の一節。箱書きには「武者絵 伝一位局筆」とある。一位局は飛鳥井雅子。飛鳥井雅親(一四一七―一四九〇)の娘。

## 十一 『志貴山縁起』三巻

卷子装 江戸時代後期写  
紙高三二・一―三二・九cm  
長さ(上)八・五四m (中)一〇・五六m  
(下)一一・一五m  
大妻女子大学図書館

信貴山に毘沙門天をまつた僧命蓮に関する三つの説話を描いたもの。上巻は、鉢を飛ばして供物を得ていた命蓮が、供物を怠っていた山崎の長者の米倉ごとその飛鉢で信貴山に運んでしまう話で、飛倉または山崎長者の巻と呼ばれる。中巻は、命蓮が醍醐天皇の病気を法力をもって護法童子を遣わして平癒させたという話で、延喜加持の巻。下巻は、尼である命蓮の姉が信濃国から彼を尋ねて東大寺に行き、大仏のお告げで信貴山に至って

再会する話で、尼公の巻と呼ばれる。朝護孫子寺蔵本(国宝、原本は奈良国立博物館に寄託)の模本の一つ。

## 十二 『賢学草子絵巻』一巻

卷子装(小巻物) 江戸時代中期写  
紙高一九・五cm 長さ一二・四三m  
大妻女子大学図書館

『道成寺縁起』の異本、『賢学草子』の絵巻物。三井寺の僧賢学と遠江国橋本宿の長者の娘との因果の物語。酒井家旧蔵本系統に属する模本とみられる。僧の住寺や娘の出自、また「道成寺」を名もなき古寺とするなど、『道成寺縁起』との相違が見えるが、鐘巻に集約される男女の物語に変更はなく、道成寺説話の広まりがうかがえる。

## 十三 『福富草紙』一巻

卷子装 江戸時代初期写  
紙高三六・八cm 長さ二〇・七三m  
大妻女子大学図書館

放屁の上手な五条辺の高向秀武(または福富の織部)の富み栄えるのを羨んだ七条の坊の刀禰福富(または隣の乏少の藤太)が、それを真似て失敗する話。京都妙心寺春浦院蔵の上下二巻がもつとも有名。なお、『福富草紙』諸伝本は、もともと詞書を持たず、会話体の画中詞によって物語が進行するが、大妻本はその絵のみを写し、文字は書かれていない。

## 十四 『土蜘蛛草紙』一巻

卷子装 明治時代写  
紙高二九・〇cm 長さ一〇・五四m  
大妻女子大学図書館

源頼光と郎等渡辺綱による土蜘蛛退治の物語を描いたもの。東京国立博物館蔵本を最善本とするが錯簡がある。大妻本は錯簡を正した形で東京国立博物館蔵本を模写したものと思われる。

## 十五 『平治物語絵巻』(信西巻) 一巻

卷子装 江戸時代中期写  
紙高三六・〇cm 長さ九・四二m  
大妻女子大学図書館

平治の乱を絵巻に仕立てたもの。絵巻の形では、「二条殿夜討巻」(ポストン美術館蔵)、「信西巻」(静嘉堂文庫蔵)、「六波羅行幸巻」(東京国立博物館蔵)

の三巻が知られる。大妻本は、静嘉堂文庫蔵「平治物語絵巻 信西巻」(十三世紀後半制作、重要文化財)を底本とした模本。「九曜文庫」(中野幸一)印あり。

## 十六 『百鬼夜行之巻』 一卷

卷子装 江戸時代末期写  
紙高三九・七cm 長さ七・六四m  
大妻女子大学図書館

鬼や醜女、古びた器物などが妖怪と化した付喪神など、異形の者たちが列をなして深夜に練り歩くことを百鬼夜行といい、本作はそれを絵画化した『百鬼夜行絵巻』の一つである。主な『百鬼夜行絵巻』には、登場する妖怪たちの顔ぶれがそれぞれ異なる真珠庵蔵「百鬼夜行絵巻」と、国際日本文化研究センター蔵「百鬼ノ図」、さらにその二つの絵巻に登場する妖怪たちを一卷にまとめた東京国立博物館蔵「百鬼夜行図」(模本)があるが、大妻本は東博模本の系統に属する。ただし、一部配列が異なっている。

## 十七 『新板絵入 伊勢物語』 二巻二冊

袋綴装 江戸(東京) 山崎金兵衛板  
刊記不明  
縦二六・五cm 横二八・四cm  
大妻女子大学図書館

歌物語。多く「むかし、男(ありけり)」の冒頭句をもつ百二十五段から成り、在原業平と思われる男の生涯を、恋愛を中心として描く。『古今集』以前に存在した業平の歌物語を中心にして、しだいに他の章段が付加され、『後撰集』以降に現在の形になったかという。

## 十八 『狭衣物語』 十五冊

袋綴装 (京都) 谷岡七左衛門板  
承応三(一六五四)年刊  
縦二四・〇cm 横一五・九cm  
大妻女子大学図書館

男主人公の狭衣大将が、源氏の宮へ思慕の情を寄せるさまを描きながら、巻一では飛鳥井の君、巻二では嵯峨院女二宮、巻三では一品宮、巻四では藤壺中宮を登場させ、狭衣大将との恋物語を展開する。十五冊の内訳は、「さころも」十冊、「下紐」(注釈書)四冊、「狭衣系図」一冊。(七『やいろも』参照)

## 十九 『宇治拾遺物語』 十五巻十五冊

袋綴装 洛陽(京都) 林和泉掾板  
万治二(一六五九)年刊  
縦二二・五cm 横一五・七cm  
大妻女子大学図書館

総計百九十七の説話を収める説話集。ユーモアに富み、中世初期の人々の生活感情をよく伝える。『今昔物語集』『古本説話集』『古事談』などと同文的同話が多い。

## 二十 「絵入 西行撰集抄」 九巻九冊

袋綴装 江戸(東京) 簾屋又右衛門板  
元禄十四(一七〇二)年刊  
縦二二・五cm 横一六・五cm  
大妻女子大学博物館

江戸時代には西行法師による述作と見られていたが、近代における研究により、これは西行の自著ではなく仮託の書であることが明らかになった。百二十一話にのぼる説話は、後半に批評・解説・教訓などの叙述が長文に加えられていて、「説話評論」の書とも言うべき性格の書。

## 二十一 『大字絵入 つれつれ艸』 二巻二冊

袋綴装 江戸(東京) 大和田安兵衛板  
寛文十(一六七〇)年刊  
縦二六・六cm 横一七・八cm  
大妻女子大学図書館

兼好法師作の随筆。全二百四十四段から成り、作者の随想、見聞などを順不同に述べる。無常観に根ざす鋭い人生観、世相観、美意識を特長とし、おおむね短文ながら含蓄ある名文として知られる。

資料解説…大妻女子大学文学部日本文学科

小井土守敏教授

桜井宏徳准教授